

ところざわの暮らし 昔

初夏の風物詩～茶摘み～

所沢市は狭山茶の産地です。今ごろは皆さんも、初夏の香り高い新茶を楽しまれていることでしょう。狭山茶は、畑の周囲や境に植えた畦畔茶がその始まりで、手揉みの製法で作った茶を仲買人に売り、残りを自家用としました。現在のようになつたのは、多くが昭和30年代からです。また、茶園の普及とともに製茶にも機械が導入されるようになりました。

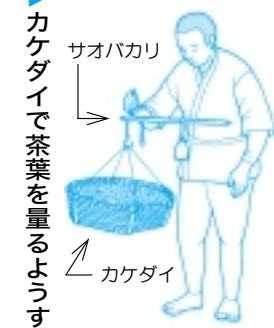


茶摘みのようす

ところで、歌にある茶摘みの時期は八十八夜の五月初旬ですが、市域で実際に茶摘みが始まるのはそれより遅く、5月中旬からでした。茶は、適期を逃がすと葉が硬くなるため、短期間に労働力を集中して5月いっぱい摘み終えるようにしました。茶摘みは一家総出の仕事で、手が足りないときには、よそから摘み手を頼んだものです。また、学校では1週間から10日間の「お茶休み」が出され、子どもも自分の家やその茶園で、茶摘みを手伝いました。

摘み賃は、茶葉の目方に応じて支払われました。カケダイという籠に茶葉を入れて秤にかけ、1貫目(3.75キロ)につきいくらで、摘み賃が計算されたのです。昭和32年ごろは1貫目が50円くらいで、子どもは、1日に200円から多くて300円を稼ぎました。

現在のように日常にお金を持つことのなかった子どもにとって、茶摘みの収入はとてものらしいもので、これを学用品の購入や夏まつりの天王様の小遣いにあてました。(宮本)



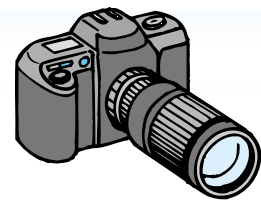
カケダイで茶葉を量るようす



「ハナミズキ通り」のハナミズキまつり。5月1日(日)ハナミズキ通りふれあい館・エココロ



ハナミズキ通りに沿ってたくさんのお店の出店が並びました。当日は、子ども御も大活躍。大勢の人でにぎわった「ハナミズキまつり」。4月16日(土)小手指駅北口



街の写真館



願いを託して「身代わり寅」が毘沙門堂に奉納される「寅まつり」。この時期に境内に咲き誇る牡丹の花が、訪れる人々を魅了します。5月1日(日)多聞院

みんなの広場

防災チェック



～大災害！避難の心得は？～

- 子ども**：お父さん、大きな災害が起きて避難するにはどんなことに注意したらいいの？
- お父さん**：よし！教えてあげよう。
- ①素足や長靴はやめよう。運動靴などがいいね。
 - ②瓦や看板などが落ちたり、強風時には物が飛んできたりしてケガをすることがあるから、ヘルメットや防災頭巾などで頭を守るが大切だね。
 - ③ブロック塀や門柱、自動販売機
- などからできるだけ早く離れよう。崖や川べりも危険な場所なので近寄らないようにしましょう。
- ④避難する場合には、玄関などに貼り紙で避難先や安否情報を残しておこうね。
 - ⑤特に、お年寄りや傷病者、乳幼児などには気を配ってあげようね。
- 子ども**：うん。わかったよ。
- ◎避難の際には、さまざまな危険が潜んでいます。隣近所の皆さんと協力しながら、安全に避難してください。
- 問い合わせ 危機管理課(☎2998-9399・FAX2998-9042)



はっぴー ところ 野老 子

「宇宙授業を通して伝えたいこと」

小黑 麻美さん(けやき台在住)



小黑さんが宇宙に興味を抱くようになったきっかけには、『宇宙メダカ』と向井千秋宇宙飛行士との出会いがありました。小黑さんが中学3年生のとき、向井さんがスペースシャトルから宇宙実験に用いた『宇宙メダカ』を持ち帰りました。小黑さんはこのメダカが欲しいと応募し、幸運にも抽選で選ばれた数十人に入りました。向井さんが所沢市に講演した際、メダカのお礼と宇宙に興味があることを伝えたところ「将来宇宙と一緒に働きましょう」と声をかけられます。高校3年生のとき、どうしても『宇宙と生命』を勉強したいと思い、理科系へ進路を変更して猛勉強を始めました。

現在は、東京大学大学院で宇宙生理学を学びながら、宇宙環境では筋肉に負担がかからないため進行が遅くなる病気や、リハビリに効果的な病気もあるかもしれないとの視点から、理化学研究所でアルツハイマー病などの研究もしています。



宇宙授業のようす

ところ 町内会めぐり

【富岡地区・十四軒自治会】 ～伝統と新しい風のまち～

美しい自然に恵まれた富岡地区の中に十四軒自治会があります。一面に広がる畑と雑木林。正式には「平地林」と言いますが、地元の人には愛着を込めて「ヤマ」と呼んでいます。一見何も無い自然の風景ですが、三百余年前「三富開拓」を担った先人達が自然と大地と、あるときは格闘し、あるときは対話をしながら知恵と工夫を凝らし創り上げたものです。

十四軒自治会とは三富の下富村に位置し、当時は、文字どおり十四軒の民家があったと考えられています。もともとは、農村地帯でしたが、昭和40年代以降から年々住宅が増え、今では伝統と新しい風とのバランスが程よい素晴らしい地域です。

十四軒の入口には、八雲神社(天王様)があり、祖先がそこに住む人々の繁栄を祈って守り神とまつり、今も地域の人々に大切にされています。同神社の祭礼は、毎年7月31日・8月1日の2日間行われ、31日の夜祭りに農協女性部・桔梗の会の皆さんが民謡踊りで華を添え、子ども会・十四軒会の皆さんによる活気あふれる御輿は祭を一段と盛り上げます。

十四軒自治会には地域を愛し、人とのつながりを大切に人々や、地道に地域や社会に貢献する人がたくさんいます。これこそ我が地域の誇りです。これからも明るく・仲良く・活気ある地域になるよう努めています。



八雲神社(天王様)

日記に綴った母の手紙 若狭・大澤 美江

私はストレスをためやすいので、いくつかの発散の仕方がある。悲しみの深いときは、音楽療法。家では、好きなCDを朝から晩まで聴く。コンサートにも行く。特にレイクエムは、静かな気持ちにさせてくれる。単純なストレスは、友人に電話をしてうんざいほどにしゃべらまくる。それ以外にも、13年前、母と永遠の別れをしたとき、悲しみに打ちひしがれていた。母の写真を見ることもできなくなった。母の目が巡ってくるたびに、花屋さんの前に立つ大勢の人々を、これほどうらやましく思ったことか...

毎日、毎日、天国の母にあてて日記を綴っていた。それは、3年の歳月をかけていた。

気分転換音楽家 並木・菅原 俊江

弦楽合奏サークルに入っていた学生時代に、楽譜を書きながら不思議と心が落ち着く自分に気づいた。写譜をしながらその曲にひたひた浸って自分自身がいやされていたのかもしれない。それが多岐にわたる。パソナで作成ができるようになり、今の私のストレス解消になっている。

数年前に友人と始めた管弦楽アンサンブルの楽譜は、メンバーが編曲し、私がパソコンの音楽ソフトでスコア譜とパート譜を作成している。強弱やテンポはもちろん、指定した楽譜でオーケストラ演奏もできる優れたもので、時間の経つのも忘れるほどである。家族には、あきれられているが、まるで大音楽家になったようなひとときに、ひとりの気分が良くなっている。

漫画日記を書きまくるの 東所沢・中原 星子

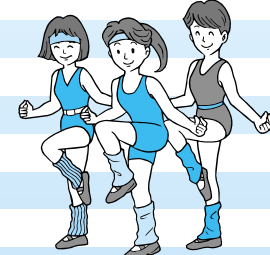
私がとても好きでやっているストレス解消法は「漫画日記」です。いろいろな日記を書きまくることにした。

旅行や映画のことを書く「イベント日記」。食べ物やレストランのことを書く「おもしろいもの日記」。また、私の持病にまつわる困ったことや面白かったことを書く「病気の日記」。すべてイラスト入りのエッセイ風。そして、何となくでも「番気」に入っているのが家族の日常を描く「漫画日記」。14歳と17歳の息子たち。そして夫のおもしろい言動が中心だ。

息子や夫は、毎日何らかのことを書いてかしてくるので、ネタには事欠かない。

誰でてもイ

テーマ ストレス解消法



次回のテーマは「雨の日の過ごし方」です

▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「雨の日の過ごし方」▶締め切りは6月7日(必着)▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501 並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係 ◎お便りお待ちしております。